

別記第3号様式

平成16年度事後評価調査書

機関名 アイヌ民族文化研究センター

整理番号	3	研究課題名	アイヌ史関係新聞記事資料に関する調査研究(胆振・日高地方)											
事業区分	重点領域・一般試験等 一般試験	研究区分	研究	試験	調査	分析								
共同研究機関 (協力機関)	(室蘭市立図書館文学資料館)		全 所 要 額 (千円)	13年度～15年度 473 (一財 473)										
<b>研究の概要</b>														
<p><b>研究背景</b> ・新聞記事、特に地域の新聞には、その土地の生活文化や住民の意識などがより強く反映していると考えられる。しかしこれまで、こうした地域の新聞記事がアイヌ史の資料という視点のもとに調査されることは少なかった。</p> <p><b>研究目的</b> ・戦前に北海道各地で発行された新聞に掲載されているアイヌ関係記事を調査・収集し、その内容を整理・分析することで、近代アイヌ史の基礎的資料を整備し、各地域のアイヌの歴史を明らかにする。</p> <p><b>研究内容</b> ・対象とした地域で戦前に発行された新聞の紙面全てを通覧し、関係記事を調査・収集し、その整理・分析を行う。</p> <p><b>研究実績</b> 平成13年度 『室蘭毎日新聞』1920～29年発行分の調査及び他紙の所在調査(札幌市、浦河町)約400件の記事を収集 平成14年度 『室蘭毎日新聞』1929～34年発行分、『室蘭日報』の調査及び他紙の所在調査(苫小牧市ほか)約400件の記事を収集 平成15年度 『室蘭毎日新聞』1935～40年発行分の調査及び他紙(市立函館図書館所蔵ほか)の調査。約400件の記事を収集。</p>														
<table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>直近の研究課題評価結果</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成14年度 中間評価</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【自己評価】</td> <td>Ⓐ・B・C</td> </tr> <tr> <td>【総合評価】</td> <td>A・Ⓑ・C</td> </tr> </table>							直近の研究課題評価結果		平成14年度 中間評価		【自己評価】	Ⓐ・B・C	【総合評価】	A・Ⓑ・C
直近の研究課題評価結果														
平成14年度 中間評価														
【自己評価】	Ⓐ・B・C													
【総合評価】	A・Ⓑ・C													
<b>研究の成果</b>														
<p><b>具体的な成果及び研究目標の達成度</b> ・約1200件の記事を収集した。収集した記事は目録化し、記事の内容と特徴等に関する分析結果の解説及び主要な記事の翻刻を付した報告書としてとりまとめた(分量の都合により上下に分割して公刊中) ・収集した記事には、当初の見込みどおり、地元の胆振・日高関係の記事が多く含まれ、全道紙や他の資料では知られていない報道も見られたことから、本研究は当初の目標どおりの成果を納めたと評価できる。特に1920年代後半から30年代にかけて、地域のアイヌによる活動や言論を報じる記事が多く見られ、こうした情報を収集できた点も収穫である。</p> <p><b>研究期間・経費の妥当性</b> ・期間・経費は、ともに妥当であったと考えられる。</p> <p>(他機関との連携) ・公式な共同研究体制はとらなかったが、資料調査にあたっては、室蘭市立図書館文学資料館(港の文学館)の協力を得た。</p> <p><b>新たな展開に向けた課題</b> ・同様の調査を他の地域にも順次広げていくという作業のほか、今回の調査で得られた記事を手がかりに、その内容を他の研究課題に活用する(人物史や民族資料のバックデータの参考資料等)ことや記事の背景や関連事項を調査しこの地域の歴史をより明らかにしていく等の展開が考えられる。</p>														
<table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>目標の達成度</td> <td>Ⓐ b・c</td> </tr> <tr> <td>期間の妥当性</td> <td>Ⓐ b・c</td> </tr> <tr> <td>経費の妥当性</td> <td>Ⓐ b・c</td> </tr> <tr> <td>成果の有益性</td> <td>Ⓐ b・c</td> </tr> </table>							目標の達成度	Ⓐ b・c	期間の妥当性	Ⓐ b・c	経費の妥当性	Ⓐ b・c	成果の有益性	Ⓐ b・c
目標の達成度	Ⓐ b・c													
期間の妥当性	Ⓐ b・c													
経費の妥当性	Ⓐ b・c													
成果の有益性	Ⓐ b・c													
<b>成果の活用策</b>														
<p><b>活用される分野</b> ・本研究課題の成果は、アイヌ史及び地域史の基礎的資料として活用される可能性を有している。</p> <p><b>具体的な活用方策</b> ・アイヌ史・地域史のそれぞれにおいて、各種の資料や著作物の参照資料として活用できる。 ・収集した記事は、研究センターの新聞記事データベースに組み込み、将来においてより総合的な研究情報データベースを構築し提供する計画である。このようなデータベースの公開は、アイヌ史の調査研究・学習等に寄与することが期待できる。</p> <p><b>成果の普及</b> ・取りまとめた成果は、『室蘭毎日新聞』掲載アイヌ関係記事：目録と紹介(1)(2)と題して『アイヌ民族博物館研究報告』8、9号(アイヌ民族博物館：白老町)に掲載(8号は16年3月末刊行済。9号は16年度末刊行予定)するとともに、胆振・日高地域の博物館・図書館及び北海道ウタリ協会支部等を中心とした道内外の関係各機関に配布した。</p>														
<table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>活用の可能性</td> <td>Ⓐ b・c</td> </tr> </table>							活用の可能性	Ⓐ b・c						
活用の可能性	Ⓐ b・c													
【自己評価】	【説明】													
Ⓐ・B・C	<p>新聞の全道版や既存資料では得られない地域ならではの活動や言論報道を収集することができた本研究は、道内各地の歴史を解明していく上で貴重な基礎資料となり、今後の調査研究課題につなぐことができた(平成16年度から釧路地方を研究対象としている。)ことから、有意義な研究であった。</p> <p>(追跡評価の必要性 有・Ⓓ)</p>													
【総合評価】	【意見】													
A・Ⓑ・C	<p>アイヌ民族の地域における活動や生活文化の特色について新たな知見を得ることのできる研究課題であり、一定の成果が得られている。 研究成果については、報告書としてまとめられ一般に利用可能な状態として提示されていることから、追跡評価は実施しない。</p> <p>(追跡評価の必要性 有・Ⓓ)</p>													

(A) 目標を達成し、十分な研究成果が得られている  
(B) 目標を概ね達成し、一定の研究成果が得られている  
(C) 目標の達成度が低く、十分な研究成果が得られていない

(a) 極めて高い、適切である  
(b) 高い、概ね適切である  
(c) 低い、改善の余地がある